



俳句投稿十年を経て

「POLE」に俳句を投稿し始めてから十年が経ちました。最初は美しい世の中への新鮮な感動から生まれていたものが、次第に私の内面的な不安や混乱状態を反映したものとなってしまいました。何度も投稿するのを止めようかと考えたことがありました。俳句を詠むつもりで川柳になってしまったこともよくありました。それでも時には沈思黙考の中で出来上がるものがあります。

kręci się kręci 風車  
kolorowy wiatraczek 廻り廻って  
w czerwcowym deszczu 雨彩う

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

leśna polana 森開け  
pośród źdźbeł traw mignęły 草間に閃く  
sluchy zająca 野兔の耳

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

畑、蛙、ボウフラと吾慈雨を待つ  
ドッカンと特大花火打ち上げろ  
秋風はつむじ曲がりの路地抜ける

岩見沢市、霜田千代磨

新刊紹介

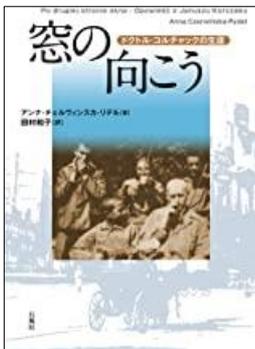
『窓の向こう〜ドクトル・コルチャックの生涯』  
アンナ・チェルヴィンスカ-リデル (著)、田村和子 (訳)

石風社  
2021.5

戦争の記憶

戦争と聞いて何時のどの戦争を思うかで世代が分かるという。昭和23年生れの私はベビー・ブーマー戦後団塊の世代である。では昭和20年12月生れの姉は終戦世代？ 7月の池澤夏樹、3月の吉永小百合は戦中世代？ 昭和17年生れの夫も戦中世代。

『窓の向こう』の主人公はユダヤ人医師ヤヌシュ・コルチャックことヘンリク・ゴールドシュミット。1878年ロシア占領下のワルシャワに生れ、ユダヤ人孤児



施設を経営。ナチスにより二百人の子供達とともに1942年8月5日トレ布林カ絶滅収容所に送られ64年の生涯を終えた。

アンジェイ・ワイダ監督が映画化し3年前の例会で「講演と映画の集い」、パネル展も行われた。

ところでお気づきだろうか。1942年は昭和17年。夫はその時生後5カ月の乳呑み児であった。79歳の夫の誕生に注目するとき、私の未生に起きた戦争の歴史がぐいっと接近して来るのを感じた。

女性達の存在が凄い

コルチャック先生に魅せられたのは勿論だが、女性達の存在が凄い。同居の母方祖母は「お前さん、まるで哲学者だよ」と幼い孫に愛情を注ぎ、此処一番では娘婿にもピシヤリと強い態度で守る。

ステファ嬢とは互いに同志愛を感じ、一緒に孤児院を経営。妻帯しなかった先生だが、時に口煩い女房のような彼女とは、一生信頼し合った。留守の時の燥(はしゃ)ぎようといったら、子供以上の子供っ振りで、いやはやなんとも。

ポーランド女性ヴォシヤの存在も見逃せない。蔑まれた職業の洗濯をこなし、その上ステファ嬢を献身的に支え戦時下の子供達を守った。

ユーモアを武器に

厳格だった父の精神病院での死、自身のチフスの看病で命を落とした母。この哀しみを先生は執筆で乗り越え数度の従軍、迫害の苦難の日々を子供達と生き抜いた。飛び切りのユーモアを武器に。

その先生の偉人伝とせず、日常のエピソードをイキイキと表現し、語り、子守唄、お伽話風に丁寧に紡ぐ著者の力量に目を見張る。ところどころそれと分かる楽しい仕掛けもあり、これには唸(うな)った。

自由、愛、平和の象徴

「窓」「窓台」「ゼラニウム」がふんだんに出てくるが、これは空間への眼差し、自由、愛、平和の象徴。この辺りはどうかご自分で確かめて頂きたい。

暗く重い歴史を輝きと翳りでくっきりと書き切った。訳者田村和子さんも凄腕だ。文句なく上手い。言い回しの妙「軟弱者、くたばったんだわ、ですから

ですから」にはニヤリとさせられる。

解説といえる「あとがき」は行き届いた文章で歴史に弱い身には助かった。9歳位から読めるような数々の配慮にもコルチャック先生への愛を感じた。秀れた一冊である。

いま子供のあなた、むかし子供だったあなた、そんなん忘れちゃったあなた、あなたにこそ今この本を!

(菅原三栄子、詩人、本会会員)

2021 年秋のイベント

《第97回例会》講演と交流の集い「石川慶監督ポーランド映画の魅力語る!」札幌エルプラザ4階中研修室 C、9月17日(金)18:30～

《第98回例会》ポーランド名画ビデオ鑑賞&交流会『COLD WAR あの歌、2つの心』札幌エルプラザ4階大研修室 AB、10月1日(金)18:30～

《第35回定例総会》&交流会《第99回例会》第10回「午後のポエジア」動画鑑賞会、札幌エルプラザ4階中研修室、10月31日(日)総会 13:30～ & 交流会 15:00～

会員動向 (2021.5～8)

退会:石澤麻里、塚原恵美子、塚原邦夫(敬称略)

新年度 (2021.9～2022.8) 会費納入のお願い

年会費 (一般 3,000 円、学生 1,500 円)

また、維持会費としてご寄付(1口千円)も承ります。

【ゆうちょ銀行振替口座】記号 02740 5 番号 19735

【加入者名】北海道ポーランド文化協会 または

[北洋銀行(本店営業部)普通預金口座]

[店番号]028[口座番号]0605084

[名義]ホッカイドウポーランドブンカキョウカイ

北海道ポーランド文化協会 会長 安藤厚

※ご請求額は個別の納入依頼(振替用紙同封)をご覧ください。

※遠方の方はご寄付 年千円で会誌 POLE の定期贈呈も承ります。

事務局にお問い合わせください。

ご寄付ありがとうございます (2021.5～8)

(1口千円、敬称略) (4) 中宮典子 (2) 引田秋生、今昇

(1) 小川真生、田村和子

POLE104 目次

第35回定例総会&交流会《第99回例会》第10回「午後のポエジア」動画鑑賞会	1
《第97回例会》講演と交流の集い「石川慶監督ポーランド映画の魅力語る!」/映画による十戒～キエシロフスキ監督『デカログ』(久山宏一)/ポーランド映画の金字塔『デカログ Dekalog』	2
ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」の動画から～「EXODUS」、民族舞踊ワークショップ、弦楽四重奏(小川真生、中宮典子、田口綾子)	4
コンピュータを利用した私のアイヌ語研究(ミハウ・プタシンスキ)	6
今秋のアマレヤ劇団北海道公演の計画(丸山博)	7
《新刊紹介》「シヨパン全書簡」第2巻、第3巻(三浦洋)	8
《新会員のひと言》私とポーランド(北浦由花里)	9
《新刊紹介》『ポーランド語《詩篇》のための音楽』ゴムウカ作(黄木千寿子)	9
『迷子の魂』トカルチュク文、コンセホ絵(長屋のり子)	10
ポーランド&ニッポン歳時記36(津田モニカ、ピョトル・ヴジェチョノ、霜田千代磨)	11
《新刊紹介》『窓の向こう～ドクトル・コルチャックの生涯』アンナ・チェルヴィンスカ・リデル著(菅原三栄子)	11

発行 北海道ポーランド文化協会

〒060-0018 札幌市中央区北 18 条西 15 丁目 3-19 安藤方

電話・FAX 011-556-8834, hokkaidopolandca@gmail.com

東京事務所 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-29-309 音響計画(株) 霜田気付

電話 03-6804-1058 FAX 03-6804-6058

ポーレ編集委員会



新井藤子/氏間多伊子

熊谷敬子/塚本智宏

松山敏

## 『窓の向こう～ドクトル・コルチャックの生涯』

アンナ・チェルヴィンスカ-リデル(著)、田村和子(訳)

石風社  
2021.5

我が国にはコルチャックの伝記としては、近藤夫妻による伝記(『決定版 コルチャック先生』)や米国のリフトン(『子どもたちの王様～コルチャック物語』)、独のモニカ・ペルツ(『コルチャック～私だけ助かるわけにはいかない!』)によるものがあるが、ポーランドでの研究蓄積を前提にした伝記は本書がはじめてである。

本書は主として子どもを含む若者向けの本ではあるが、コルチャックの全生涯をコンパクトに示す優れた作品である。映画『コルチャック先生』(1990 アンジェイ・ワイダ監督)をご覧の方は、そこでの映像を思い起こしながら一挙に読み進めることになる。

## 開けられた窓 から

“窓の向こう”という本書の書名は、子ども向けの偉人伝を手掛けてきた著者が、コルチャックの作品『開けられた窓』からヒントを得たものである。

現在も残っている孤児院の建物は、第二次大戦中屋根裏部屋のあった5階部分がナチスドイツの空爆によって吹き飛んでしまっただけで今はないが、その部分にコルチャックの書斎があった。とはいえず子どもたちも出入り自由で、彼の不在のときに子どもたちが好んで入ったようだ。本書にも、その書斎に入った子どもたちが彼の設ける障害物を排除して窓辺に向かった様子が描かれている。コルチャックの原典から引用する。



「私には楽しいのだ、子ども達が誘惑する物をいかに巧みに回避するのかあるいはいかに妨害物を一掃するのか、それらを知るのが楽しい。開けられた窓は勝利する。例え風があっても、雨でも、寒くても。トロピズム(注 ウィルスの向性、植物屈性)は藻に対して至るところに密集させ、化学的な親和力のちょうど結晶点のように、上と下に向かってグループを形成することを命じ、ジャガイモの茎に対しては穴倉の壁にそって格子窓をめざして這い回るよう命ずる。その同じ自然の法則は、人々の禁止に反して、囚人を窓へと向かわせる。広がりを目にするためだ。子どもには、運動と空気と光が必要であると、私はこのことに同意する。しかし、まだ必要なものがある。広がり、自由の感性だ。これは開けられた窓だ」(塚本訳“開けられた窓”1926)

1942年、コルチャックと孤児院の子どもたちはゲッターの中の「囚人」であったが、本書は、過酷な

状況が迫る中、タゴールの戯曲「郵便局」の主人公で重い病の少年の死の受容と病床の「窓の向こう」にある子どもの解放・自由を重ねて終わっている。

## 日本の子どもたちの思い

窓の向こうにあるものへの“子ども”の思いとホロコーストの現実の落差を私は感じてしまう。映画『コルチャック先生』では最終シーンで子どもたちが一時的にせよ解放されるかのようなシーンが挿入されている。これにも同じような問いを発したくなる。

中学生や高校生はここをどのように見、読みとるのだろうか。日本の子どもたちはどのように読むのか。大学でコルチャックの話をするがほとんど彼のことを知るものはない。本書の出版を子どもたちとの対話を可能にするものとして心から歓迎したい。

訳者田村和子さんは、よく知られているように、ポーランドの青少年向けの文学や絵本などの翻訳紹介の他、コルチャックに関してのみならずホロコーストの歴史をクラクフ中心に研究されており、コルチャックという人物や思想を紹介する本書の訳者としてはこの人をおいて他にないと感じながら本書を熟読しました。

(塚本智宏、札幌国際大特任教授、本会会員)

## コルチャック先生のヒューマニズムの原点

感想文を書くなら、真っ白なキャンバスに描くこと、題材は初心であること——知っていることで感動が遮られるのをおそれます。ましてやコルチャック先生に関する、児童向けの本ですから。

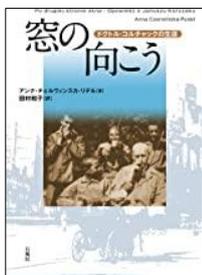
映画『コルチャック先生』のハイライトシーン——幼子を抱きかかえるコルチャック先生を先頭に子ども達が強制収容所へ向かう聖者のような大行進では、頭の中にはリアルな音楽が轟きます。それは成人して以来「アウシュビッツ」というワードに過剰に反応する私だからです。

「子どもの権利条約」という概念の礎となった、子ども法廷による自治の思想。ヘーニョと呼ばれた子ども時代、世界改造計画という哲(さと)りに似た知覚を持ったコルチャック先生の分け隔てない資質。

この時代の地殻変動や歪みを背景に、コルチャック先生のヒューマニズムの原点を描いた伝記を何も知らない真っ白な子どもの心で読み、自己変革の感動的出会いとし、ぜひ感性の柔らかな発達

期にドクトル・コルチャックと巡り合い人格の柱にしてほしいと思います。

コルチャック先生のフィロソフィーの核心は、子ども観、子ども像をどう捉えるかにあるでしょう。アジア、日本、北海道、市町村から学校、学級、家庭までさまざまな関わりの中で、子どもや弱者がいかに幸福に生き、家庭、地域の宝として守られるかという課題には、人の心やいのちのやり取りの砦になる覚悟が問われます。「子どもの権利条約」に反映されたコルチャック先生の生き様が悲運の国ポーランドから生まれた意味を反芻し、コルチャック先生の物語を人類の希望の物語として受け継ぎたいものです。



幸せか不幸か、あるいは今日の関心事でいえば、陽性か陰性か、そんな選別の先っ端(ぼ)で未来を決めてなるものかと、改めて思います。人類の愚かさばかりが私達を覆ってしまうと、結局、生命体誕生の地球の胎動期にまで還ることになるのかもしれない。歴史の因果は連綿とつながり、人智では計れない淘汰という神の領域となるのでしょうか。そこに登場すべき人物は、選ばれし申し子のように、

数奇な運命も顧みない愛の人でしょうか。

空に海に境界を隔てない鳥や魚に倣い、大地に白線を引かない時代・世界が(私の苦手な)ネット支配の先に立ち現れ、人類の価値基準が桁違いに変革されるとき、縄文人・先住民族の言い伝えによる人類存亡の危機の壮大な叙事詩をもコルチャック先生は先見していたのだとしたら、強制収容所での抹殺も恐怖ではなかったのかもしれないと、何か超越論的な救いにすがりたくもなります。

#### 祈らぬ者の祈祷書 から

最後に、本作からコルチャック先生の「神と差し向かいで～祈らぬ者の祈祷書」の一節を引きます。

「わたしは背筋を伸ばして要求します。自己の利益のためではないのですから。

子どもには幸運を与えて下さい。努力する子どもには援助の手を、困難にある子どもには恵みを与えて下さい。安易な道を通って子どもを導くのではなく、美しい道を通って子どもを導いて下さい。

わたしの宝物である悲哀と労働を手付け金として子どもを導いて下さい。それがわたしの願いです。」

(熊谷敬子、本会会員)

### 『アレクシエーヴィチとの対話～「小さき人々」の声を求めて』 スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ；鎌倉英也；徐京植(著)；沼野恭子(著訳)

岩波書店  
2021.6

本書はアレクシエーヴィチのノーベル賞受賞講演、日本を訪れた作家の福島原発事故の取材(2016)、徐京植氏との二度の対談(2000/2016)、東京外国語大学でのレクチャーなど、様々な題材から構成されているが、その核となっているのは2000年に放映されたNHKスペシャル『ロシア：小さき人々の記録』だ。著者のひとりである鎌倉英也が作成した20年近く前の番組だが、書籍化にあたって、長いスパンから作家の創作の軌跡を振り返るようなかたちで再構成されており、新しく多くのことに気づかされる。「亡命」を余儀なくされたアレクシエーヴィチが、滞在先のドイツから序言を寄せていることから明らかなように、昨年の大統領選挙と抗議活動以降のベラルーシの緊迫した政治情勢もまた視野に入っている。

鎌倉は『戦争は女の顔をしていない』(1985)から『チェルノブイリの祈り』(1997)にいたる作品に登場する人物のその後を、アレクシエーヴィチ本人とともにインタビューすることで優れたドキュメンタリーを作り上げた。

本書を読むとこの番組での取材活動そのものが

アレクシエーヴィチのその後の創作の源泉にもなっていたことがわかる。とりわけチメリヤン・ジナトフは、自殺の問題を扱った『死に魅入られた人々』(1993)の末尾で引用される新聞記事に名前が出てくるだけだったが、最新作『セカンドハンドの時代』(2013)では重要な登場人物の一人になっている。ジナトフはバシキリア(現バシコルトスタン)生まれのタタール人で、第二次世界大戦の激戦地であるベラルーシのブレスト要塞で戦ってドイツ軍の捕虜となり、戦後は第二シベリア鉄道の建設事業に参加するが、ソ連解体後の状況を嘆いて抗議の意味をこめて自殺した。本書の記述によれば、アレクシエーヴィチはNHKスペシャルの取材で初めてジナトフの遺族に会ったことになる。番組の映像も今回の書籍も作家の創作プロセスを知るための貴重な一次資料を提供しているのだ。

#### 生成するテキスト

アレクシエーヴィチの作品はそもそも完結することのないテク

